令和４年度（２０２２年度）

社会福祉法人　いなほ福祉会

就労継続支援Ｂ型事業　ワークショップゆう　事業報告書

１．事業所所在地

和歌山県新宮市佐野９５４－３
電 話（０７３５）３１－２３３６
ＦＡＸ（０７３５）３１－９９９６

２．基本方針

基本方針である「障害の状況に配慮しつつ利用者が働く中で、その能力をいかんなく発揮し、生産活動をとおし社会的貢献や働く喜び、充実感を感じ取ることで、自らの存在価値を確認し、社会的自立をめざします。また、一人ひとりが互いに人格を尊重し、相互に助け合う集団づくりを通し豊かな成長をめざします。作業所生活を通して経験や生活の幅を広げ、豊かで充実した生活につながる支援を心がけます。」の基、実践に努めました。

３．利用定員と利用実績（令和５年３月末日）

定員　２０名　　利用登録者　２３名

利 用 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
開所日数	21	21	22	21	22	21	21	22	22	20	20	23	253
延利用人数	386	390	395	387	392	396	393	401	430	343	377	434	4,724
１日平均	18.4	18.6	18.0	18.4	17.8	18.9	18.7	18.2	19.5	17.2	18.9	18.9	18.5

※令和３年度 ＝ 18.2 人

※感染予防の為に利用を控えた方へは在宅支援を行いました。

４．職員体制（令和５年３月現在）

	定　数	現員	内　訳	
			常勤	非常勤
管　理　者	１名	１名（兼務）		１名（兼務）
サービス管理責任者	１名	１名	１名	
生活支援員	１名	４名 ⑴名兼務	１名	３名 ⑴名兼務
職業指導員	１名	５名		５名
目標工賃達成指導員	１名	１名	１名	
調　理　員		３名		３名
送　迎　員		３名		３名
嘱　託　医	（１名）	―	―	（１名）
計	５名	１８名	３名	１５名

５．重点方針の結果

（１）成人分野共通方針

①成人分野事業所での共通した課題を協働して取り組んでいきます。

・「ワークショップゆう」移転プロジェクトチームを中心に、移転に向けた検討や取り組みをすすめます。

→「ワークショップゆう」移転プロジェクトチームを中心に、建設場所の選定から、図面の見直し等、移転に向けた検討や取り組みをすすめました。

・業務継続計画（ＢＣＰ）の内容を深めていきます。

→業務継続計画（ＢＣＰ）について、各委員会で話し合った内容を検討し、作成に向けてすすめました。

・身体拘束等の適正化を図る取り組みを充実させていきます。

→虐待防止委員会で検討し、「身体拘束説明書・同意書」の検討や、「虐待防止のための指針」等の作成をすすめました。

②新たな職員配置や役割のもと、体制の安定や事業所運営の充実をすすめます。

・代交代や役割の見直しを通し、体制強化を継続していきます。

・職員の役割を見直し、それぞれの役割の自覚や主体性につなげ、事業所運営の充実へとすすめていきます。

→前年度と比べて大きな職員の異動や役割変更はありませんでした。正規職員の役割りや事業所運営の携わる事への問題意識のためにも、主任級以上の管理者会議を定期的に実施する必要があると感じました。

③福祉専門職員としての人材育成をすすめます。

・今後の事業展開をすすめていくためにも人材育成や事業を担える人材の確保が課題であるため、人材育成の強化を継続します。

→実践の質を高めたり、事業展開をしていくためには、実践を任せられる人材の確保が重要であります。今後も利用者を主体とした実践や支援の質の向上となるよう、人材育成が継続した課題となります。

④法人理念を大切にしながら、法令遵守への意識や認識を深めていきます。

・法人理念の実現のために、社会的信用を確保することを目的に、法令遵守への意識や認識を高めていきます。

・指導監査ガイドラインの理解を深めます。

→指導監査が４年ぶりに成人分野３事業所で実施され、大きな指導等も無く、無事に終わることができました。今後も事業所内の内部監査を通して法令遵守への意識や認識を高める機会へとつなげていく必要があります。

（２）ワークショップゆう重点方針

①新しい作業部門を創設します。

・衛生面や時間にとらわれない、ゆったりとした空間の中で力が発揮出来る作業を取り組みます。

→ホールでの作業として、タイダイ染め商品の製作、道の駅へのゆぅキー納品、物品販売のチラシ配布や配達を主に行いました。今後、地域のイベント等で出店機会を積極的に持ちタイダイ染めの商品を販売する必要があります。

②事業所の移転整備に向け、事業内容の検討をすすめていきます。

・充実した支援につながる施設整備となるよう、事業所の役割や設備の充実、作業等の取組み内容を検討します。

→利用者の取り組みや過ごし方に応じた設計図面の検討をおこないました。
検討の中で、現在の場所で生活介護の指定申請を行い多機能型事業所を開設出来ることが分かり、開設手続きを行いました。

③利用希望や利用待機者、実習等の受入をすすめます。

・当事者や関係機関と連携し、開かれた利用につなげられる仕組みを作り、ニーズに応じた事業所利用や実習受入につなげていくようにします。

→過去に利用希望のあった方から話を聞く機会を持ち、それぞれの進路先で落ち着いている事を聞き取りました。みくまの支援学校の生徒２名が実習を通して利用希望があり、令和５年度から利用開始することになりました。

④土曜取り組みの開所日を増やします。

・コロナ禍により移動支援の利用や外出制限がある等、楽しみの機会が少ない状況が続いています。土曜開所日を増やし、楽しみになる機会を広げ、生活の充実につなげます。

→作業所内を拠点とした取り組みを中心に、開所日を増やすことが出来ました。

⑤職員体制の安定と実践の充実をはかります。

・利用者を主体とした支援を深めていけるよう、職員間での情報共有や連携を強化します。

・研修や学習を充実させ（職員会議、ケース会議）支援者の資質向上に努めます。

→利用者を主体とした支援を深め、職員間での情報共有や連携を強化出来るよう、職員会議での学習の機会を大切にしました。

６．利用者への提供サービス

働くことや作業所での生活体験を通して、利用者が見通しをもって労働や生活に関われることを大切にする“ゆるやかな就労”という方針を大切に取り組んでいます。小集団での取り組みを大切にしながら、利用者が主体となり豊かな生活を実感できる支援の組み立てに努めました。

（１）〔 作業支援 〕

・「工賃向上計画」に基づき、下記のとおり、製パン、製菓事業の充実をめざしました。

①製パン、製菓部門

・感染予防への対応として持ち売り販売を控え、納品を中心とした販売とした為、製造販売量は今年度も縮小となりました。

・原材料費の高騰に対し販売価格は据え置いており、価格の見直しが課題となっています。

(製パン部門)

・製パンではあん食パンの注文販売を９月から開始しました。
ロールパンは給食の注文が増え昨年度から比較すると年間 4465 個販売数が増えました。
食パンは給食の注文がなくなり年間 400 斤販売数が減りました。

・パンの新商品の開発を行いました。

(製菓部門)

・ゆぅキーは太地道の駅での販売の他、１０月からＢハイマートでの販売を開始し順調に売り上げを伸ばしています。ゆぅキーは前年度から 1345 個販売数が増えています。

②物品販売、事務部門

・カタログ販売は、引き続きいなほ作業所とエリアを分担して取組むことができました。

・売り上げを増やすため、３月にも春のカタログ販売を行いました。

・就労会計と予約受付、集計、請求の実務として、事務部門（おふぃしゅぅ）を充実させました。

・事務部門の技術向上により、受注や生産量の把握、販売時の伝票準備、売上計算等が円滑にすすめられています。

③新しい作業部門

・タイダイ染めの製品をレインボーフェスタや福祉健康まつりへの出店、カタログ販売で販売しました。
また今年度も通園くじらの取り組みとして染物を教えに行く機会があり、利用者の自信につながりました。

・製造や事務作業に携わり難い利用者に向け、衛生面や時間にとらわれない作業の一つとして染物作業を柱に取り組んでいく事となりました。

④就労支援事業・収支実績

	2020(R2)年度実績	2021(R3)年度実績	2022(R4)年度実績（見込み）
年間売上金額（A）	７，２０９，５１１円	７，７０７，６３０円	７，８６５，１２２円
年 間 経 費 （B）	７，３５３，５８３円	７，７９６，３６９円	８，２３５，２３５円
年間利益（A－B）	－１４４，０７２円	－８８，７３９円	－３７０，１１３円

⑤工賃支給実績

	2020(R2)年度実績	2021(R3)年度実績	2022(R4)年度実績
平均工賃月額	１０，２８８円	１０，０９５円	１０，５３８円

時給換算額	１２４．２円	１１８．２円	１２９．４円
年間工賃総額	２，６０２，９７０円	２，５２３，９６５円	２，６４５，０８５円
年間支払対象者数	２５３名	２５０名	２５１名
利益の分配額	基本５，０００円／人	基本５，０００円／人	基本１０，０００円／人

※収益は赤字ではあったがコロナの影響による理由のため、剰余金から補填しボーナス加算を行いました。

（２）〔生活支援〕

作業所実践や諸行事等での利用者・家族の要望（意見）を傾聴し、利用者本位の作業所運営となるよう取り組み、要望（意見）に対しては迅速な対応を行いました。

①ドヤサー（土曜日の取り組み）・お楽しみ企画

・平日に取り入れにくい余暇活動を通して、生活体験の幅が広がるように活動内容を工夫しました。毎月１回の土曜日の活動は、社会経験を広げる為の大切な位置づけとなっています。また、利用者の楽しみとなっており、今後も内容をさらに充実させていきます。

・新型コロナウィルス感染予防の為、主に事業所内で取り組むようにしました。

・つくしんぼ歌謡祭はオンライン、一泊旅行は日帰り旅行とコロナ禍の中でも中止にせず開催しました。１８回実施準備をしていましたが、感染拡大により４回中止となりました。

実施月	取り組み内容		参加利用者
４／　２	映画鑑賞会	【ワークショップゆう】	１４名
４／１６	ハイキングに行こう	【宇久井ビジターセンター】	(感染予防の為中止)
５／１４	つくしんぼ歌謡祭の練習	【ワークショップゆう】	１５名
５／２８	つくしんぼ歌謡祭（オンライン）	【ワークショップゆう】	１６名
７／　２	タイダイ染め体験（Tシャツ・カバン）	【ワークショップゆう】	１４名
７／１６	映画鑑賞会	【ワークショップゆう】	１２名
８／　６	ゆう夏祭り	【ワークショップゆう】	１４名
８／２０	ゆうサマーフェスティバル	【ワークショップゆう】	１１名
９／　３	みんなで絵をかこう	【ワークショップゆう】	１４名
９／１７	秋のスイッチ運動会	【ワークショップゆう】	(感染予防の為中止)
１０／　８	カレーとデザートを作ろう	【ワークショップゆう】	１５名
１０／２８	日帰り旅行（平日の企画）	【御浜町方面】	２０名
１１／　２	日帰り旅行（平日の企画）	【外食＆休暇村温泉】	１９名
１１／　５	新東オンライン交流会	【ワークショップゆう】	１５名
１１／２６	映画鑑賞会	【ワークショップゆう】	１４名
１２／１０	スイッチ運動会	【ワークショップゆう】	１４名
１２／２４	大人のクリスマス会	【ワークショップゆう】	(感染予防の為中止)
１／１４	大人のクリスマス会（新年会）	【ワークショップゆう】	(感染予防の為中止)
１／２８	（感染予防の為中止）		

２／２５	新春パーティー　【ワークショップゆう】	１９名
３／１８	カラオケに行こう　【ワークショップゆう】	１４名
合　計	日帰り旅行企画２日／ドヤサー（土曜取り組み）１４日開催	２４０名

（ドヤサー令和３年は12日開催　186名/中止４回）（日帰り旅行１日）

②ニコサー

・毎週水曜日午後の約１時間でありますが、作業をしないリフレッシュする時間となっています。主にストレッチを行い、１週間の中休みとして活用できています。

③ハイツの利用

・グループホームに対するニーズの実態を把握しつつ、コロナ感染予防による宿泊体験実習の利用は控え、家庭の都合による利用や一人暮らしの利用者がお正月に利用しました。

〔宿泊体験実習　利用実績〕
利用者　２人　／　利用日数　２泊　／　職員同泊同行等支援　２泊

④障害福祉サービスの活用

・必要に応じて本人や家族と相談支援事業所との仲立ちとなり、「障害福祉サービスの活用」につなげ余暇や生活面でも豊かな生活につながる事を大切に出来るようすすめました。
・コロナ感染予防のため移動支援の利用が休止している方に向け同行支援を対応しました。
・一人暮らしになった利用者への生活支援への対応を行いました。

（３）〔 就労支援 〕

・一般就労をしている利用者の就労が継続出来るよう、東牟婁圏域障害者就業・生活支援センターや相談支援事業所と連携しながら支援の継続を行いました。
・必要に応じて就労先の事業所からの相談や対応を行いました。

（４）〔個別支援計画〕

・「アセスメント」「個別支援計画」「モニタリング」「ケース検討」「計画修正」を、特に本人が主体となって自信や意欲につなげられるよう努めました。
・相談支援事業所のサービス等利用計画の策定時期に応じた個別支援計画の策定やモニタリングをすすめました。「個別支援計画」を策定し、計画の実施、並びに適時見直しを実施しました。

（５）〔 日 課 〕

・「令和４（２０２２）年度事業計画書」のとおり実施しました。

（６）〔健康管理〕

・年１回の健康診断を実施（２０２２（令和４）年　６月２７日）
※必要に応じて通院同行支援を実施し、医療機関と連携した対応を行いました。

※必要な方へはワクチン接種調整や接種同行を行いました。

（7）〔 通 所 〕

・必要な方への送迎対応を継続しています。

（8）〔給食サービス〕

・栄養のバランスを考えた給食を提供し、食事を通した健康増進に努めました。
・嗜好調査等を行い、リクエストに応えた献立を行いました。
・偏食の方への食事提供の工夫を行いました。
・材料費、光熱水費高騰による給食費値上げの検討を行いました。

７．利用者のプライバシーの確保（個人情報管理）

人権擁護の立場から個人のプライバシーの保護並びに配慮を徹底しました。

職員は正当な理由なく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を第三者に漏らしてはならない。さらに職員でなくなった後においてもこれらの秘密を保持すべき旨を職員との雇用契約に明記する等、必要な措置を講じました。

個人情報等のデータ保護のためＮＡＳを導入し、データ管理やセキュリティ対策につなげました。

８．非常災害対策（安全管理）

①自衛防災訓練（自主訓練）

・水害、土砂災害（６月２２日）（１０月１９日）、地震と津波（４月２日）からの避難訓練を実施しました。
・ＡＥＤの使用方法の動画鑑賞（１１月１７日）

②自衛防災訓練（７月２７日）（２月２２日）

・新型コロナ感染予防のため消防署の立ち合いはなく、火災からの避難・通報を自主的に実施しました。

③消防設備法定点検（９月１６日）（３月１３日）

④震災（津波）対策を含めた総合的な防災計画、並びに防災対策の構築については一定の準備は完了しており、継続的な訓練の実施を行いました。

⑤防犯訓練　防犯ビデオ鑑賞を予定していましたが、次年度へ延期となりました。

※災害対策推進員・安全管理対策推進員を配置し、利用者・職員の防災意識の高揚を図り、利用者の安全・安心・衛生保持に努めました。
※異常気象による被害を想定し、無理をしない開所や早めの避難等の対応を行いました。
※災害伝言ダイヤル体験利用を毎月１５日に実施しました。

９．虐待防止・人権擁護のための措置

利用者の人権擁護・虐待防止に対応するため、責任者の設置、相談窓口の設置等苦虐待防止体制の整備、成年後見制度の利用に向けた支援、職員に対する研修その他必要な措置を講じま

した。人権擁護推進員を配置し利用者・職員の人権意識の向上につなげていきました。
虐待防止責任者　　野々　江美
虐待受付担当者　　田中　洋平

１０．苦情解決のための措置

利用者やその家族の意向を汲み取るよう努めました。コロナ感染予防のため家族会の開催が減り、家族会開催時に意向を聞き取る機会が少なくなりました。

日々の生活支援上での、利用者や家族からの希望や要望的な苦情申し出を受け、都度改善を図り解決を積み重ねる事で大きな苦情につながることなく１年を終える事が出来ました。

苦情解決要綱」に則った案件はありませんでした。

苦情解決責任者　　野　々　江　美
苦情解決担当者　　田　中　洋　平
第 ３ 者 委 員　　那智勝浦町役場　福祉課福祉厚生係

１１．家族会の運営

開催日（１１月８日・３月２８日）　　２回開催
※５月、７月、９月、１月は新型コロナ感染予防の為中止となりました。

１２．職員（援助者）の援助技術の向上

①各種会議により、職員間のコミュニケーションを充実させ、支援方針の共有と遵守に努めました。

・支援職員全体会議	→	１１回開催
・職員会議	→	１２回開催
・モニタリング、個別支援計画策定会議	→	１４回開催
・給食会議	→	８回開催

②職員研修の実施（支援の質の向上）

☆内部研修

日　程	主　催	研修内容	講　師	参加人数
4 月 7 日	ワークショップゆう	利用者支援について	田中洋平	１２名
4 月 23 日	いなほ福祉会	虐待防止・人権擁護伝達研修	人権擁護推進員	全職員
5 月 19 日	ワークショップゆう	利用者支援について	田中洋平	１３名
6 月 23 日	ワークショップゆう	ゆうのこれからについて ２０２１年度実践総括	田中洋平	１２名
7 月 28 日	ワークショップゆう	２０２０年度実践総括	田中洋平	１２名
7 月 30 日	いなほ福祉会	発達の学習会③ 研修報告書について	田尻・下口	４名
8 月 25 日	ワークショップゆう	２０２０年度実践総括	田中洋平	１１名
10 月 22 日	いなほ福祉会	業務継続計画（BCP について）	平澤氏	４名

11 月 17 日	ワークショップゆう	必要な支援と必要ではない支援について	田中洋平	１１名
12 月 15 日	ワークショップゆう	発達のなかの煌めき いつのまにか出来たルール	亀井　舞 田中洋平	１１名
2 月 16 日	ワークショップゆう	発達のなかの煌めき	亀井　舞	１２名
3 月 16 日	ワークショップゆう	「いなほ福祉会が目指すもの」 「この子らを世の光に」より	田中洋平	１３名

☆外部研修

日　程	主　催	研修内容	講　師	参加人数
4 月 19 日	ピースウィンズ・ジャパン	新型コロナ対策オンライン講座	ピースウィンズ・ジャパン大江医師	１名
6 月 24 日	全障研和歌山県新宮東牟婁サークル	全障研例会「みんなのねがい」の学習会	新宮東牟婁サークル事務局	１名
6 月 25 日	新宮東牟婁障害者施設連絡協議会	職員研修会・映画「星に語りて」鑑賞とグループワーク	新東事務局	１名
6 月 28 日	和歌山県	令和４年度和歌山県サービス管理責任者等更新研修	和歌山県福祉事業団	１名
8 月 3 日	全障研和歌山県新宮東牟婁サークル	全障研例会「みんなのねがい」の学習会	新宮東牟婁サークル事務局	１名
9 月 26 日	わされん	優生保護法学習会	きょうされん 佐藤ふき氏	３名
10 月 19 日	全障研和歌山県新宮東牟婁サークル	全障研例会「みんなのねがい」の学習会	新宮東牟婁サークル事務局	１名
11 月 17, 18 日	新宮消防本部	防火管理責任者講習	新宮消防本部	１名
2023 年 1 月 30 日	わされん	東北・いわての思いをつなげたい（報告会）オンライン	わされん 報告者６名	３名
3 月 4 日	新宮東牟婁障害者施設連絡協議会	きいちゃんの災害伝言ゲーム	新東事務局	１名

③資格の取得状況

精神保健福祉士　有資格者　１名
介護福祉士　有資格者　５名
サービス管理責任者　有資格者　２名

１３．事務・財務管理

・会計処理の適正と状況把握を定期的に実施しました。
・請求事務の効率化をはかりました。（福祉事業所向け業務管理システムＡＳＰの導入）
・経費の省力化をはかりました。

１４．その他の業務

①きょうされん・わされんの運動

・ブロック会議を通し、地域での障害者運動を継続していく事が出来ました。

・オンラインでの「わたしたちのかくし芸大会」に参加し、全国の事業所とつながり交流をしました。

・トルコシリア地震で被害を受けた障害のある方への支援募金を取り組みました。

②新宮東牟婁障害者施設連絡会・全障研新宮東牟婁支部

・歌謡祭や交流会、職員研修会へ積極的に参加しました。

③和歌山県社会就労センター協議会

・機関紙編集委員として地域の事業所を訪問取材し「わかやまセルプ協だより」の作成を行いました。

④地域との協力

・見学者の受入や実習生の受入は感染予防に注意しながら行いました。

・器楽合奏コスモスの練習への協力を行いました。

・地域イベントへの出店を通して地域の方との交流する機会を持ちました。

⑤啓発、情報発信

・福祉会ニュース編集委員会で法人内職員と合同で編集作業を進めました。

・ブログ更新を最低毎月１回更新し、作業所の様子を対外的に知ってもらう機会としました。